

五農校アグリコミュニティ

(株)日立製作所と青森県の五所川原(ごしょがわら)農林高校は、「雇用をつくれる農業とその担い手育成支援」をテーマに、学校活動情報ポータルサイト『五農校アグリコミュニティ』を共同運営。

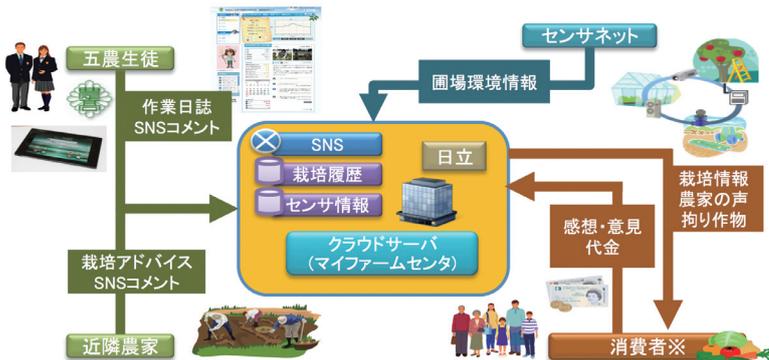
生産者(学校)、消費者、地域をつなぐ双方向コミュニケーション基盤とした農業モデルで、新たな地域産業を興しつつある。

背景

五所川原農林高校と(株)日立製作所は、「雇用をつくれる農業とその担い手育成支援」をテーマに交流を築いてきた。農林高校と企業が農業を取り巻く課題の解決策のひとつとして、農業生産の高度化や生産者・消費者・地域を結ぶ新たな農業モデルを実現する為にITを活用することとした。

概要

生産者(学校)・消費者・地域をつなぐ双方向コミュニケーション基盤として、学校活動情報ポータルサイト『五農校アグリコミュニティ』を構築。学校と企業が共同運営している。農場内に設置したWebカメラ、気象センサー、通信機器で取得した各種情報と、生徒がタブレット端末で入力した農作業情報(農薬・施肥情報など)をクラウドサーバーへ蓄積。SNSを通じて作業状況の見える化、近隣農家との情報共有、消費者との双方向交流を実施している。



※2014年9月には五所川原農林高校がプロデュースした特産枝豆「毛豆」を(株)日立製作所で社内販売を実施。社員クラブでも枝豆として提供。

アピールポイント

- IT活用により、農業分野の客観的数値化やリアルタイムな農業情報収集を実現し、コスト管理も含めた効率的な栽培環境を確立。
- さらに、データを蓄積のうえ、そのデータ解析を利用した農業の高度化とノウハウ継承実現。
- 農林高校生を中心とした農業の担い手育成と、地域を取り込み農業を起点とした活性化の促進。
- SNSを通じて、「顔の見える農業」・「参加する農業」を実現し、消費者の食の安全・安心志向などに対応するだけでなく、消費者と生産者や地域とのつながりを生み、双方の農業に携わる感動の共有を提供。
- 高校が主体となり地域を巻き込み、さらなる地域活性化のために「五所川原6次産業化推進協議会」を設立。
- 自治体や地域企業との連携で、「就農就労型6次化事業モデル」を立案し、新たな地域産業を興しつつある。



タブレット端末による作業風景



五農高アグリコミュニティ
作業日誌



センサーとカメラ



五所川原農林高校産品の販売会の模様